

井深に働きを託したヘボン

「井深氏はその名の示す通り、梶であります。私は明治学院という船にこの新しい舵をつけました。この船はこれからどのような方向に乗り出しましても、この舵は決して針路を誤りません。」

これは、1891(明治24)年11月6日、明治学院サングム館礼拝堂壇上において、明治学院初代総理(現 学院長)であったJ.C.ヘボンが、総理室の鍵を井深梶之助に渡しながら語った言葉です。

ヘボンは1850年代、アメリカのニューヨークで病院を開業し名医としての評価を得て、成功もおさめていました。その間も外国伝道の志が消えたわけではありませんでした。1859(安政6)年、ヘボンは医療を通してキリスト教を伝えるために来日します。無償で施術をするなど、医学の発展に努めました。

その傍ら、さまざまな日本人から日本語を直接聞き書きしてまとめあげた和英・英和辞書『和英語林集成』を作ります。和英語林集成は幕末から明治の言葉を集めた貴重な日本語辞書とも言えます。この辞書で用いられた表記法は「ヘボン式ローマ字」と呼ばれ、現在もパスポートの署名や地名表示に用いられています。さらにヘボンが旧約聖書・新約聖書翻訳に携わって事業を完成したことも、日本にのこした業績です。

また、夫妻で始めたヘボン塾(男子部が明治学院となり、女子部はフェリス女学院に発展)や、横浜指路教会の建設にも貢献しました。

そのヘボンが1891(明治24)年の就任式で、井深梶之助に後継者として明治学院を託しました。当時、ヘボンは76歳、井深は37歳でした。この後、井深は、明治学院の総理だけでなく、キリスト教界やキリスト教学校の指導者として活躍、国際会議では日本を代表して演説をし、各国の代表者と交流したのです。

POINT 明治学院サングム館



サングム館 1887(明治20)年
明治学院歴史資料館所蔵

1887(明治20)年に、サングム夫人の寄付によって建設された明治学院最初の校舎。3階建てで、2階には400人が入れる講堂があった。講堂では、礼拝の他、毎週金曜日の夜、大きなランプの下で文学会が開催された。

サングム館はその後、1914(大正3)年11月24日の授業中に、突然天井から出火して全焼してしまう。その時、教員や学生・生徒たちの奮闘により持ち出されたリードオルガンは、現在も明治学院記念館2階の大会議室に置かれている。

POINT J. C. ヘボン



金婚式を迎えたヘボン夫妻
1890(明治23)年
明治学院歴史資料館所蔵



ヘボンが後を託した井深梶之助
1897(明治30)年頃
明治学院歴史資料館所蔵

ジェームズ・カーティス・ヘボンは1815(文化12)年3月13日、米国ペンシルベニア州ミルトンに生まれる。1840(天保11)年にクララ・メアリー・リートと結婚。

1859(安政6)年4月、ヘボンとクララは、日本に向けて船に乗り出発。同年10月、神奈川沖に到着し神奈川宿にあった成仏寺に住む。1862(文久2)年、ヘボンは横浜居留地39番に住みはじめ、施療を続けた。1863(文久3)年秋、横浜居留地39番のヘボン邸内で、英学塾「ヘボン塾」を開く。このヘボン塾はJ.C.バラに引き継がれ「バラ学校」となり、「築地大学校」、「東京一致英和学校」へと発展する。1886(明治19)年「東京一致英和学校」「東京一致英和予備校」「東京一致神学校」が合併して1886(明治19)年「明治学院」が創設され、1889(明治22)年ヘボンは明治学院初代総理となった。

POINT 『和英語林集成』

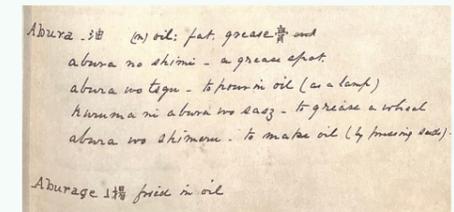


J. C. ヘボン編訳『和英語林集成』(復刻版)

『和英語林集成』は幕末・明治期に、当時の日本人の各層の言葉を集めて編纂された日本で最初の本格的和英辞書。改訂を重ねて広く使われ、海外でも出版された。

『和英語林集成』手稿 J.C.ヘボン筆(抜粋)

『和英語林集成』の作成に向けたヘボンが書いた下書き。1859(安政6)年から1864(文久4、元治元)年頃に記されたものと推定されているが、いまだ確定していない。A-Kまでの部分が書かれており、後半はマタイ福音書の日本語ローマ字訳が掲載されている。



『和英語林集成』手稿 (明治学院大学図書館所蔵)

アクティブラーニング

◆ヘボンが残したヘボン式ローマ字は、なぜ日本のパスポートや外国人が進んで使うようになったのでしょうか。各自で考えて、皆で発表しあいましょう。

◆ヘボン式ローマ字では「新橋」を「shinbashi」ではなく、「shimbashi」としました。なぜ、このような表記になったのか、他の同様の例をあげつつ、各自で考え、発表しあい、説明してみよう。

◆ヘボンは医療を通して日本にさまざまな貢献をしました。ヘボンがどのような貢献をしたのか調べて発表しあいましょう。

アクティブラーニングのための参考資料

- ・J.C.ヘボン編訳『和英語林集成』
- ・木村一著『和英語林集成の研究』
- ・児童英語研究グループ編『はじめてのヘボン式ローマ字』
- ・望月洋子著『ヘボンの生涯と日本語』
- ・杉田幸子著『ヘボン博士の愛した日本』
- ・村上文昭著『ヘボン物語 明治文化の中のヘボン像』
- ・「ヘボン式と訓令式?ローマ字の混乱しない学び方とは」(<https://gkp-kokushiki.gakken.jp>)
- ・明治学院大学図書館デジタルアーカイブ『和英語林集成』(<https://mgda.meijigakuin.ac.jp/>)